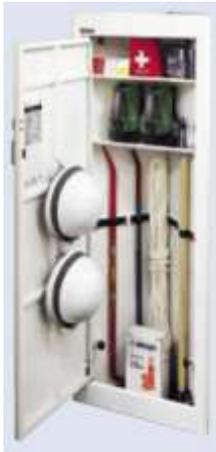


レスキューキャビネット

■キャビネット全景



■使用想定シーン

- ①建物・教室に閉じ込められた学生等の救助に使用する
- ②現場にいる人間だけで最低限の対応ができるよう、事務室外に設置しておく
- ③夜間に発災することを想定しライト等を用意しておく
- ④救助工具はすぐに見えるように身近な場所に備蓄することが重要



■扉の開閉について

- ・開ける時: 透明カバーを開け、ボタンを押します
- ・閉める時: 鍵を使い閉めます



■内容物



※キャリーフの用法について



キャリーフとは折りたたみ式の担架です。
オレンジ色の袋から取り出すと左図のように広げられます。
大人4人で持ち手となる穴部分をつかみ、負傷者を搬送します。

エレベータ用防災キャビネット

■エレベータ用防災キャビネットの必要性

・東京都防災会議では、「東京湾北部を震源地にM7.3の地震が発生すると、約7,500台／約64,000台のエレベーターで閉じ込めが発生する」と想定している。また、エレベーター復旧までには24時間以上要す場合も想定されている。よって、学内の人が乗るEVの全てに設置する。

■キャビネット全景



■扉の開閉について

- ・開ける時：透明カバーを開け、ボタンを押します
- ・閉める時：鍵を使い閉めます

**非常時に必要な商品がない!!
という事態を防ぐ
いたずら防止機能付き開閉ボタン**

扉を一度開けてしまうと専用の鍵(付属品)がないと閉めることができません。
鍵は開けるためではなく、閉めるために使います。
詳しくは40ページをごらんください。



Lタイプ・Sタイプ・
フラットタイプ共通

■使用想定シーン

災害時
閉じ込められてますーッ
携帯も壊しな...
真っ暗だあー
キャット!!!
助けてくれー

**エレベーター用
防災キャビネット設置時**
エレベーターに閉じ込められたら辛抱強く待つしかありません。エレベーター内で過ごすための備蓄は必須です。

閉じ込め対策用具を
完備しました!
●多機能ラジオライト
●安心ガイドブック
●ホイッスル
●発光ライト ●トイレ
●ブランケット ●食料水

一般的なエレベーターの非常用電気は、一定時間経つと消えてしまい、M7級の首都直下地震が起きた場合、救出されるまでに、長時間を要することが予想されます。

発光ライトで光源を確保。
(1本あたり12時間持ちます)

トイレは簡易トイレとシートで乗り切ります。

- ①エレベータに閉じ込められた学生が救助を待つために使用する
(水食糧の補給・情報収集・排泄・寒さを凌ぐ、明りの確保)
- ②閉じ込められた場合は決してこじあけることはしないで救助が来るまで落ち着いて待つ

■内容物

